

第4期第5回札幌市市民活動サポートセンター事業運営協議会 概要

日時：平成22年 1月27日(水)

19:00～21:00

場所：札幌エルプラザ2階会議室1・2

1. 開会

2. 事務局より

登録団体の発表の場を提供し団体活動の活性化を図り、市民に市民活動団体の情報を周知するなど、市民活動の更なる活性化を図るために各種事業を展開している。

次期指定管理へ向かうにあたり、市民活動サポートセンター運営とともに事業についても、各活動団体のご意見及びこの事業運営協議会で委員の皆様から頂戴いたしましたご意見をもとに、市民活動の拠点施設としての機能をより一層高めていくべく運営を目指していく。

3. 議事

(1) 平成21年度事業実施状況及び統計報告

平成21年12月からこれまでの市民活動サポートセンターの運営状況及び事業実施状況、施設利用状況、活動支援施設などの相互利用状況、印刷機等支援機器利用状況、団体登録状況、市民活動相談状況の統計報告を行う。

< 意見、要望の要旨及び回答 >

市民活動相談について

- Q 市民活動相談について、相談件数が増えていることは大変良いことである。統計を見ると「事業運営」についての相談が増加傾向にあるようだが、どのような内容の相談が寄せられたのか、教えてほしい。
- A 企画内容、広報、イベントの紹介などすでに決定した事業に関する相談のほかに、実際の事業運営についての相談が寄せられた。

サロン事業について

- ・ サロン事業にゲストスピーカーとして参加したが「横の連携」に関心を持つ方が多く集まった事業であった。その後、連絡を取り合い、中には入会までつながった方もいた。「連携」について関心を持つ方が多くいることを感じる機会であった。

エルプラまつりについて

- ・ 一般参加者として出席したが、いろいろな世代の方が参加しており、大変なぎわいで驚いた。うれしい状況である。あれだけ多くの方が参加するイベントであるならば、今後はボランティアを募るなどして案内人をおき、安全対策について考慮しても良いのではないだろうか。

利用統計の集計方法（利用票）について

- ・ パソコンコーナーの利用数についてはプリンターの使用数が実績となって表れているが、パソコン自体の利用人数がわかる形の統計にしてはどうか。
 - ・ 全ての利用内容を事務局が把握するのは困難と考えられるので、ノートなどを設置し利用後は記入するなど労力を削減しながら率を上げる方法を考えてはどうか。
 - ・ パソコンコーナーだけではなく印刷作業室での作業内容、用途についても加えると良いのではないか。
 - ・ 現在すでに利用票にまとめて記入する方法をとっていると思うが、そこに活動種別などの項目を加え、データベース化すれば良いのではないか。
 - ・ 用紙については、印刷作業室、パソコンコーナーなど館内各所に配置してはどうか。
 - ・ データを集めるのは良いことだと思うが、それをどう生かすか、どこに必要なのかが見えない。どういったデータをどう活用するか、どう推移を見ていけるかが出てきた際に考えてすすめていってはどうか。
- (2) 平成22年度事務ブース使用団体選考委員の推薦について
選考委員のメンバーとして協議会委員の中から2名選出した。
- (3) 次期指定管理の計画について
平成22年4月から開始する指定管理業務の計画について説明を行った。
- (4) 第4期事業運営協議会を振り返って
協議事項の反映
- ・ 協議会であがった意見について発言者の意図の聞き取りや反映の可否についての報告をより深めていける取り組みが必要であろう。

議題及び検討方法

- ・ 限られた時間の中で話しきれなかった議題ものもある。同じ議題を複数回協議する、委員の人数を減らすなどして深めていく方法も必要ではないか。

協議会時間外での情報交換、有志検討会の実施

- ・ メーリングリストをつくったが、その中での情報交換は困難であったが、発言を補足するものとして使用する可能性はあるのではないか。
- ・ ペーパーレスという観点からもメーリングリストの有効な活用方法を考えていくと良いのではないだろうか。
- ・ 有志検討会は3回実施したが、成果はあがらなかった。本会議の内容確立が優先課題である。
- ・ 専門委員会や分科会といった形式の会議を取り入れてはどうだろうか。

各団体への支援の指標「団体カルテ」

- ・ 評価シートを用いて、支援すべき点や指標を共有し進めてはどうか。

市民活動サポートセンターのまちづくりへの参画

- ・ 次年度からの指定管理業務計画を見るとまちづくりに参画する計画が多く含まれている。市民活動をしていない市民からは知名度の低い市民活動サポートセンターがまちづくりに参画していくのは存在感を示すことにつながり、評価されるのではないだろうか。

次期事業運営協議会の開催回数

- ・ 次年度以降は年間2回の開催となっているが、現実的に話し合いのできる規模のものを設定できるだろうか。効果的に意見を集約できるシステムをつくることができればきめ細やかな支援につながるのではないだろうか。

協議会委員の活用

- ・ 多様なキャリアを持つ協議会委員の経験をさらに生かしていける内容提示を行い独自性を高めていくと良いのではないだろうか。
- ・ 次期、新しく就任される委員にはオリエンテーションを行い、趣旨を十分に伝えると良いのではないだろうか。

将来構想への参画

- ・ 報告に対しての意見だけではなく、将来のビジョン、提案書などにテーマを決め協議会からの意見が反映される仕組みがあってもよいのではないだろうか。

多様な人材、意見の交流

- ・ 多様な人材が集い、検討を重ねるこの協議会の意見は、エルプラザ内だけではなく様々なところで参考にされている。今後も集い、ふれあい、学びあい、いろいろな気持ちを伝える場だったのではないだろうか。

エルプラザ公共4施設全体の協議会

- Q エルプラザ公共4施設全体の協議会の構想はあるか。
- A 各施設の所管部局がそれぞれ別ということもあり、現在、提案の中でも4施設全体の協議会の構想はない。

持続性のある協議会の運営

- ・ 今後もこの協議会は継続していくことになると思うが、これまでの意見を汲み取り、連続性、継続性のある形で運営してほしい。